

[第 135 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 2 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5年 3月 4日(土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.208～(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

- 2 月、安曇川公民館で第 134 回人間学塾を開きました。今回は初めての女性 2 名を入れて 9 名でした。
- テキスト
中江藤樹著『鑑草』の第四巻 教子報の第 2 話～第 4 話
- あらすじ

第 2 話 孟子の母は、孟子が勉学の途中で里へ帰ると機織り機のはたを切り、学問に気を緩めてはいけないと厳しく戒められた。

第 3 話 二程子の母は、徳が高く、夫とともに二人の息子に良い師をつけて学ばせたので、二人は大儒学者になった。第 4 話 (略)

■ 配布資料

(1) 「まなざし 453 号」、(2) 「孟子」「二人の程子」、(3) 数土文夫「廉恥心は少年の教育において最高の徳の一つ」、(4) 窪田慈雲「仏道の原点、因果応報の真理に学ぶ」、(5) 安田善次郎「身家盛衰循環図系」、(6) 横田南嶺「気海丹田」

■ 今日のポイント

- ・ 孟子の母がはたを切ったのは、孟子の学問探求を願う深い心から出たものである。
- ・ 程子の母の理にかなない筋道立った家政を見ていた二人の息子は、師を得てさらに成長した。
- ・ 貧困の中であって、人としての道を大切にすることは、子が廉直に励むことにつながる。
- ・ 廉恥心は、今の日本人に薄れてきているが、教育により取り戻さねばならない。
- ・ 釈尊の教えの要諦は、人のために尽くすこと、戒を守ること、そして己に降りかかるすべての試練には、敢然と立ち向かっていくこと。
- ・ 努力して一定の財を築くと分かれ道が来る。そこで驕り高ぶるとまた困窮へ転落する。一方、そこで気を緩めず修養して人格を高めていくと、安楽の境地に至る。「克己」が大事。

■ フリートーク

- ・ 「廉恥心。スシローでの少年の行為はまさにこれが失われている証左だ」
- ・ 「心学の教えは大切である。利禄の教えの千倍の価値があるといわれている。2500 年前の儒教、仏教は人間の本質に関わることを教えている。日本人は宗教心が薄れているのが心配だ」等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。